



4 2050年の社会のイメージ

2050年の脱炭素社会を目指すにあたっては、あるべき社会の姿をまず示すバックキャストの手法で考えることにしています。そこで、北九州市が2050年に描く「快適で災害にも強く、誰もが暮らしやすいまち」のイメージを具体的に提示し、市民・事業者と共有しながら取り組んでいきます。

(補足)

◆エネルギー

再エネ100%電力化、メガソーラー、洋上風力発電、
バーチャルパワープラント(VPP)、
バイオマス発電、水素・アンモニア発電

◆運輸

次世代自動車(燃料電池自動車、電機自動車)、水素ステーション、
自動運転、BRT、MaaS、
ゼロエミッション飛行機・船、自転車・徒歩

◆建築物

ZEB・ZEH(次世代太陽光・次世代蓄電池)、電力(PV+次世代蓄電池)、
HEMS・BEMS(エネルギーマネジメント)

◆産業

水素還元や電炉による製鉄、CO₂回収プラント、カーボンリサイクル、
メタネーション・人工光合成、風力発電関連産業(基地港湾)、水素コンビナート、

◆農林水産業

スマート農業、スマート水産、バイオ素材生産、
海藻類によるCO₂固定化(ブルーカーボン)

◆まちづくり・暮らし

コンパクトシティ、都市緑化、シェアリング・サブスクリプション、
サーキュラーエコノミー、
洪水・高潮に強い堤防、防災拠点(自立電源)、
AI・オンライン化、テレワーク、ワーケーション、遠隔医療、
電動・自動化、ドローン、宅配ロボット